

表題 大分大学STEAM Lab.の活動について

取組内容

県内各学校園，行政，企業・団体，NPO法人，教育委員会と連携し，教員養成教育・教養教育改革・地域貢献の役割を担うために，令和元年に大学として全国で初めてSTEAM教育に関する組織「大分大学STEAM Lab.」を教育学部内に設置した。学生教育及び地域連携を2大柱とし，「Society5.0へ向かう社会を生きる子供たちにとってどんな教育が必要なのか」ということを追求しながら，STEAM教育を視座とした教育・研究・地域連携等の取組を行っている。（右図参照）



学生教育

統合された知識・技能の習得を目指し，これからの社会に共通的に求められる知識や思考法などを身につけるため，各教員が担当する教員免許科目等においてSTEAM教育に関連する講義やワーク（「STEAMの視座と認識の科学（教養教育科目）」等）を取り入れている。



地域連携

Engineering（工学），Arts（芸術）を軸としながら「理」を見る力であるScience（科学），「理」を解く力であるMathematics（数学）にTechnology（技術）を活用して課題に迫るアプローチを主軸に，「作る・知る（学ぶ）」ための場として，「円形木琴づくり」や「くるくるアニメマシンをつくろう！」などのクリエイティブ講座やシンポジウムを開催している。



成果・効果

- ・社会が求める広い教養を身につけた人材の育成、地域の教育に貢献できる教員の育成に寄与する。
- ・学生が将来教員となり、イノベーション創出人材として次世代を担う子どもたちを育成することに繋がる。
- ・学生が学校や地域で活躍することにより、資質・能力を高め、スキルアップを図ることができる。また、これからの社会に必要なデータサイエンス，AIリテラシーなどの分野に対する能力の育成が期待される。
- ・今までの取組の結果，令和5年度に全学組織としてSTEAM教育推進センター（仮称）を設置予定である。

